

社内ニュース TOPICS

ステンレス生産再構築

Production line of stainless steel equipments is being reorganized

神鋼ファウドラは、化工機、環境装置、冷却塔の三事業を柱とした産業機械メーカーとして幅広い事業展開を進めてきた。「技術に生き、技術を売る」をモットーに長年培った技術と経験から生まれる製品群は、国内のみならず海外でも高い評価を得ている。同社は今年創立35周年を迎える。そして長期的な視野に立った企業戦略の第一歩を踏み出す。

同社は今年1月、化工機事業部のステンレス部門の生産体制を再構築する方針を打ち出した。これまで本社神戸工場（兵庫県神戸市）と播磨工場（同加古郡播磨町）に分散していたのを播磨工場に集約、強化・拡充する。最新の組み立て設備、新鋭工作機などの導入を図る。9月には長期的な展望に立った「新生播磨工場」が誕生する。投資額は15億円、またグラスライニング製品についても生産の効率化を進め、より強い企業体質への礎を築いていくことにしている。

また冷却塔部門では、省スペースで低ランニングコストを実現した重層式冷却塔を開発、本格的な受注活動に乗り出した。従来大型冷却塔を二段重ねにし、設置面積を30%低減した。さらに大口径高効率ファンを採用、経済性を高めた。地域冷暖房システム、工場分野での普及活動を進める。

環境装置部門では、国内最大の嫌気式排水処理設備を受注するなど活発な動きを見せている。これは嫌気性バクテリアを用いた浄化処理システムで、処理後に出る汚泥量も少なく、発生するメタンガスをボイラー燃料に利用できるため経済的である。現在までに約20基の納入実績があり、石油化学、製薬、食品など幅広い分野で効率的なシステムとして威力を発揮している。

このように同社は、各部門でのグローバルな観点に立った事業展開を進めている。今後も現場ニーズに立脚した高機能製品を開発していく考えである。

一方、さらなる国際化をめざし昨年、韓国の展示会に参加した。今年も10月に北京で開催されるケミカル・エンジニアリング展「アヘマシア」に出展するなど国際舞台で活動が大いに期待される。化学工業日報（'89.4.22）

素材とシステム——総合開発に磨き

Brushing up developments for both production material and system engineering

技術と世界で飛躍する神鋼パンテック。神鋼ファウドラは10月9日から「神鋼パンテック」として生まれ変わる。素材としてのグラスライニングの性能向上はもとより自動化、省力化、安全性をシステム化により実現、高機能製品開発に意欲的に取り組んできた同社の新しい顔である。今後は国際事業展開も強化、また技術開発力もさらに磨きをかけ、グラスライニングのトップメーカーとしての地位をより強固なものにする。

グラスライニングには、耐酸性、耐アルカリ性、耐摩耗性、耐衝撃性といった4つの特性が求められる。同社は、耐酸性はもちろん耐アルカリ性にも優れたガラス「グラスチール9000」、さらに耐摩耗性、耐衝撃性を加味したグラ

ス「ヌーセライト8100」など、求められる条件すべてに応える各種高機能グラスを取り入れている。

またラテックスなど付着性の強い内容物に対しては、短期的な非付着性、耐食性を発揮するグラスライニング表面処理技術で応え、ユーザから高い評価を得ている。さらに母材としてのステンレス鋼、ステンレスクラッド鋼の加工技術も他社の追随を許さぬ高水準にあり、これら素材で蓄積してきた独自技術の組み合わせにより、グラスライニング機器の新しい可能性を開く。

一方で、機能を追求したシステム展開にも積極的に取り組んでいる。石油化学、製薬分野などでのファイン化傾向には目を見張るものがある。このため生産プロセスにおける厳しい品質管理、過酷な条件下での反応などに対応した各装置が求められる。同社は素材のアプローチとともに、高機能化装置の開発と周辺機器への有機的なアクセスを行い、多品種少量生産をも効率的にできるシステムの構築を図っている。

その一例が信頼性の高い豊富なアクセサリ群。金属部分がまったくないグラスライニング製センサー「メゾンデ・シリーズ」（温度計、グラスダメージ監視装置、PH測定計）、軸と翼が容易に着脱可能なグラスライニング製攪拌翼「クライオロックアジテータ」、反応機用缶内モニターリングシステムなどを品揃えしている。

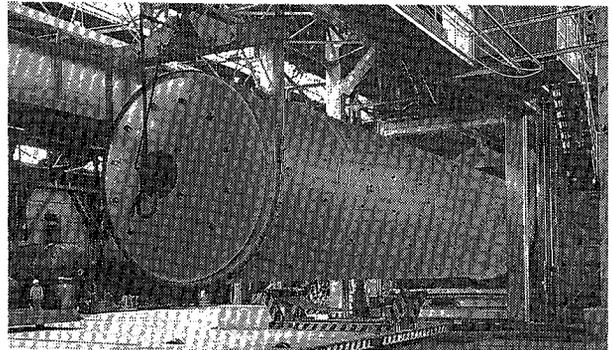
このほかFA化のためのプロセスコントロールシステム「プロセスモニターPMX-98」を開発、ソフト面から生産効率化を強力にサポートする。

また、化学機器メーカーとして長年培ったプロセス制御、保全に関する知識をベースとしたAI（人工知能）システムの開発にも取り組んでいる。

同社は、耐食機器のオールラウンドプレーヤーとして幅広い事業展開をしている。グラスライニングをはじめ、ステンレスなど各種耐食金属分野でも高い技術と実績を持つ。

また、フッ素樹脂コーティング・ライニングは「神鋼ファウドラ・テクノレジン」を子会社として設立、専門メーカーとして展開している。

製品の据え付け、納入後のアフターケアは、子会社の「神鋼ファウドラ・サービス」が担当する。スピーディーで常に製品が最高の状態で使用できる。今後は、生産体制の再構築にも取り組み、あらゆる耐食ニーズに周辺機器を含むプラントエンジニアリングメーカーとして総合技術力を発揮、化学工業の発展に向けてワールドワイドな事業展開を行う方針である。化学工業日報（'89.6.9）



世界最大級の焼成炉から生まれるGL製品
Glass lined product produced by world largest furnace

展示会

Exhibition ACHEMASIA '89

「ACHEMASIA '89」は、10月11日から17日の7日間、中国・北京市の中国国際展覧センターで開催された。

この展示会は、中国化学工学会と DECHEMA (西独)との共催で、西独で3年に1回開催されている化学プラント・ショー (ACHEMA) のアジア版として開催されたもので、中国で開かれた初めての化学工業の国際展示会である。

出品企業は340社で、その主な内訳は西独が154社と全体の45%を占め、次に中国の95社、その他の外国企業としては、仏19社、米国12社、その他欧州34社、日本からは26社と世界各国の出展となり、文字どおり国際展示会となった。

当社は、グラスチール製品、電解研磨、粉体用SVミキサー、WF E 薄膜蒸留装置など化工機事業部の主力製品を展示。また、会期中に開催されたセミナーにおいてはステンレス鋼製重合機についての講演を行い来場者から高い評価を得た。

連日、数多くの来場者が当社ブースを訪れたが、熱心に展示品をながめ質問をする姿を見て、中国化学工業界の発展に対する関係者の熱意を強く感じた。

当社にとって10月9日に神鋼ファウドラから神鋼パンテックへと社名変更を行った直後の展示会となり、中国語で「神鋼汎技術」の新社名を大いにPRできた展示会となった。

新社名を機に飛躍へ——環境装置分野重点に

Advance of environmental business is expected in connection with company's name renewal

上下水道、化工機メーカーの神鋼ファウドラ(株)(本社・神戸市中央区、川口正社長)は10月9日から社名を「神鋼パンテック」に変更。創業35周年を機に、新たな飛躍を期することになった。

これを記念した講演会、新社名披露パーティを東西2つの会場で各々開催する。また、ユーザに親しんでもらうため、新しい社名マークとは別に、水のH₂Oをビジュアル化した「コミュニケーションマーク」をつくり、このほど発表した。

社名変更の理由は、米国ファウドラ社が所有していた神鋼ファウドラ社の株式を8年前にすでに神戸製鋼所が買い取っていたこと、来年12月には米国ファウドラ社との技術提携が期限切れとなり「ファウドラ」の名前が使えなくなること、米国ファウドラ社の所有している技術をクリアーしているため、改めて提携を延長するメリットがなくなったこと——などが理由。新社名を機に、5つの子会社の名称も変更となる。

神鋼ファウドラは昭和29年創業、神戸製鋼グループの優良子会社として成長し、今年8月1日に満35周年を迎えた。上下水道、水処理など環境装置分野は昭和34年から手がけ、化工機事業部、冷却塔事業部と並んで同社の3本柱を形成。年間約320億円の売り上げのうち、環境装置分野で145億円を稼ぎ出している。

社名変更を決めた今年6月末の株主総会では、西原守社長の取締役相談役への就任とともに、後任に川口正氏(神



当社小間
Shinko Pantec's
exhibition room



戸製鋼所常務取締役)を選任。新たな体制、新たな計画のもとでの事業展開が企画されている。10月9日の社名変更はその第一歩。10月中旬には同社の中期計画もまとめられる予定。

当面の課題は「社名変更に伴う諸行事、披露を行うこと、10月初旬にステンレス部門の播磨工場の統廃合を行うこと、来年12月に提携期限の切れる米国ファウドラ社との友好関係のとり結び」(川口社長)という。

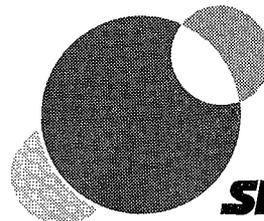
新たな経営方針を織り込んだ中期計画の内容は明らかにされていないが「環境装置分野は一番伸ばさなければならぬ分野であると考えている」(同)ということから、汚泥脱水装置(EO脱水機)、嫌気性発酵装置(ABCシステム)超純水分野などへの積極的な事業展開が予想される。

創立35周年記念講演会は西部会場として10月9日午後1時半から神戸市内のコベルコ会館にユーザなど350名を招き「国際化をにらんだ日米関係」(講師・神戸大学根岸教授)、「ミキシング技術の発展と将来」(講師・米国ミキシングエクイップメント社副社長オールドシュー博士)。

東京会場は10月11日午後1時から東商ホールに500名を招き、同様テーマで講演会を開く。「国際化をにらんだ日米関係」については講師は東京大学平川教授を予定している。

新社名「神鋼パンテック」の社名披露パーティは10月26日11時から神戸市内のホテルオークラ神戸で、同31日には東京のホテルオークラで開かれる予定。

新社名「神鋼パンテック」の変更に伴って、社名ロゴとは別に、企業のシンボルマーク、愛称とも考えられる「コミュニケーションロゴマーク」が発表された。3つの円を重ね合わせ、緑、青、赤で大地、水、太陽をあらわすとともに、水の化学式H₂Oを連想させている。太陽の白の部分は、第4番目の事業の育成をはかるため、同社の飛躍への息込み、姿勢を表現した。日本水道新聞('89.9.14)



SHINKO PANTEC

新たなコミュニケーションロゴマーク
Communication logomark is newly adopted